

PRESS RELEASE

2020年9月29日

各位

会社名 株式会社 Ubicom ホールディングス
代表者名 代表取締役社長 青木 正之
(コード番号：3937 東証第一部)
問合せ先 執行役員戦略企画本部長 八田 真資
(TEL. 03-5803-7339)

エッジ AI プラットフォームを提供する Idein 社のパートナープログラムに参画
～同社の次世代 AI/IoT プラットフォーム『Actcast』を活用した
ソリューション開発及びプロバイダービジネスを推進～

次世代を見据え、グローバル拠点を活用した先進ソリューション開発に取り組む株式会社 Ubicom ホールディングス（本社：東京都文京区、代表取締役社長：青木正之、証券コード：3937、以下「当社」）は、AI や IoT¹技術の急速な発展と普及に伴い注目されるエッジコンピューティング²を採用した IoT システム構築のメガプラットフォーマーを志すベンチャー企業の Idein 株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役：中村晃一、以下「同社」または「Idein 社」）と、同社が提供する次世代 AI/IoT プラットフォーム『Actcast』を活用したソリューション開発及びプロバイダービジネスの推進に向けて、同社のパートナープログラム『Actcast Partner Program』に参画することとしましたのでお知らせいたします。

DX（デジタル変革）の潮流に乗って膨大なデータが蓄積される時代になり、データセンターへの負荷の集中や情報セキュリティの問題など、既存のデータ集約型のクラウドコンピューティングの課題が浮き彫りになるにつれ、それらを解決する新しいデータ処理技術として、データ分散型のエッジコンピューティングへの注目が一段と高まっています。

エッジコンピューティングでは、データ生成元の端末機器やその近くでデータの処理を行うことで、データセンターやネットワークへの負荷を分散し低遅延・高速処理を実現、また必要なデータのみを収集・分析することによるセキュリティやプライバシーへの配慮など、加速する IoT 化や 5G 時代において必須の技術として益々の技術発展とマーケットの拡大が期待されています。

¹ IoT：様々なモノがインターネットにつながること

² エッジコンピューティング：スマートフォン、カメラ、自動車など IoT ネットワークの末端（エッジ）でデータを分散処理する技術

当社はこの度、Arm社（Arm Limited、CEO: Simon Segars 本社：英国ケンブリッジ）の認定AIパートナーであるIdein社（<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000015.000026271.html>）と協業し、2023年に国内のみで4兆円以上と見込まれるIoT市場に、グローバルを見据え本格的に参入することと致しました。

Idein社は、新たなソフトウェア産業を支えるメガプラットフォームになることを理念に、ディープラーニング推論の劇的な高速化を実現した、世界にも類を見ない高い技術力を有するテックベンチャーであり、経済産業省がグローバルに活躍するスタートアップを支援するために立ち上げた「J-Startup」プログラムに選定されている他、数多くのアワードを受賞しています。今年1月に、エッジデバイス³上でカメラや各種センサーを使ったディープラーニングを実行し、取得した実世界の情報をWebと連携するエッジコンピューティングAIプラットフォーム『Actcast』を正式ローンチしました。

当社は、時代の先を見据え、社会課題の解決に資するITソリューションを創造する、唯一無二のビジネスイノベーションカンパニーであり続けることを経営理念に掲げ、約1,000名のグローバルトップノッチエンジニアと国内外の開発・事業拠点を活用した先進ITソリューションや開発支援を提供しています。昨今においては、成長企業やリーディングカンパニーとの戦略的パートナーシップを通じて事業成長を加速化するWin-Winインベストメントモデルの推進、次世代を見据えた新規事業開発、そして新たなマナイズモデルの創出に注力しています。

当社は今後、Idein社とのパートナーシップを通じて、エッジAIプラットフォーム『Actcast』を活用した先進ソリューション開発と次世代エンジニア育成にレバレッジをかけ、当社グループが戦略市場と位置付ける金融/公共・医療・自動車・製造/ロボティクス領域に向けたソリューションプロバイダービジネスの展開を図ってまいります。

以上

³ エッジデバイス：インターネットに接続された末端（エッジ）の機器